

## 国際観光の現状とツーリズム産業が目指すべきこと

5月25日、本学客員教授である株式会社ジェーティービー代表取締役会長・田川博己氏による今年度1回目の特別講義が文教大学湘南校舎で行われました。今回の講義のテーマは「国際観光の現状とツーリズム産業が目指すべきこと」であり、ツーリズム環境を取り巻く国際環境の変化やこれからのツーリズム産業が目指すべき方向、求められる人材像、旅行業の歴史について田川会長からご講義いただきました。



まず、ツーリズム環境を取り巻く国際環境の変化についてです。観光産業は非常に裾野の広い産業であり、観光産業は多大な経済波及効果・雇用創出効果を持っています。世界における観光産業の経済波及効果は約7.2兆ドルとされており、これは世界全体のGDPの9.8%を占めています。また、観光産業の雇用創出効果は約2億8358万人で、世界全体の雇用の9.5%を占めています。一方、日本では、経済波及効果は48.8兆円で日本国内のGDPの5.2%、雇用創出効果は419万人で総就業者数の6.5%となっています。

観光交流人口の増大による経済効果も大きく、日本人定住人口の1人当たりの年間消費額は約124万円です。これを旅行者の消費に換算すると、外国人旅行者7人分、国内旅行者（宿泊）26人分または国内旅行者（日帰り）83人分に相当します。このように、ツーリズム（観光）産業が経済に与える影響は莫大で、その雇用効果も非常に大きいものです。2020年に東京オリンピック・パラリンピックを控えた日本はますますこの恩恵を受けられることとなります。

現在、日本の訪日外国人旅行者数は右肩上がりに増加しており、2015年の訪日外国人旅行者数は過去最高の1973万人に達しました。また、訪日外国人旅行者数が出国日本人旅行者数を上回ったのは大阪万博以来、45年ぶりのことです。訪日外国人旅行者数が日本人旅行者数を上回った結果、日本の外国人旅行者受入数も世界22位から16位に上がり、2015年の国際観光収支の黒字額も過去最高の1兆1217億円に達しました。世界における日本の観光競争力の2015年総合ランキングも9位で、アジアでは1位となっています。さらに、グローバル化の進展により世界における人流は拡大を続けています。北東アジア・東南アジア地域は世界の中でも最も高い伸びが予

測されている国際観光市場であり、2030年における北東アジア・東南アジアの国際観光到着数は4.80億人と見込まれています。

今後、日本が訪日客数を伸ばしていくために「強み」と「弱み」を理解することが必要です。日本の「おもてなし」・「文化的資源」は高評価を受けていますが、「サービスインフラ」・「価格競争力」の面ではまだまだ改善が必要です。2020年東京オリンピック・パラリンピックまでの日本の観光産業黄金期に向けて、世界に日本を売り込まなければなりません。観光立国推進への新たな目標として、訪日外国人旅行者数を2020年までに4000万人、2030年までに6000万人と設定し、訪日外国人旅行消費額を2020年までに8兆円、2030年までに15兆円、外国人リピーター数を2020年には2400万人、2030年には3600万人と定めています。今後の日本にとって観光業は大きな産業になっていくことは間違いありません。

次に、旅行業の歴史とJTBの歩みについてです。JTBは2012年に創立100周年を迎え、日本の観光業を長年支えてきました。さらに、ユダヤ難民の亡命の手助けをしたことで有名な杉原千畝と一緒に彼らを陰から支えていたということには驚きました。

JTBグループでは「マーケットへの正対」・「ビジネスモデルの変革」をキーワードに、ツーリズム産業の発展とイノベーションに新たに挑戦しています。「マーケットへの正対」とは、JTBグループを北海道から沖縄まで分社化することで、「地域密着」を掲げ地域社会に正対し、新たなビジネス領域を創造し、発展することを志向しています。「ビジネスモデルの変革」とは、旅行＝手段、旅行会社＝ビジネスパートナーとし、お客様の感動と喜びのために、JTBならではの商品・サービス・情報・及び仕組みを提供し、交流文化事業として地球を舞台にあらゆる交流を創造することです。

最後に、これからのツーリズム産業が目指すべき方向と求められる人材像についてお話しいただきました。ツーリズム産業は、中長期的な社会構造変化への対応を迫られています。それは、新しい需要の創造とライフスタイルを生み出すことであり、ツーリズム産業に発展する力が試されているということでもあります。ツーリズム産業が今後目指すべき方向として、「交流の創出としくみづくり」「経済・社会の課題解決」「『旅の力』の活用」「地域コンテンツの開発機能の向上」「異文化の理解による国際化」を挙げることができます。

そして、ツーリズムの6次産業化（＝モノの流れだけでなく、ヒトの流れを作り出すことで、新たな価値を生み出し、地域経済をさらに活性化する活動のこと）により、観光客が地方に足を運ぶことによって、地域の地産地消の拡大、地域製品の売上増、地域ブランドのイメージ向上、地元産原料の消費拡大などの地域における新たな価値の創造が見込まれます。

また、ツーリズム産業が人流・物流の活性化を推進することにより、地域と海外との交流促進を担うこととなります。そして、国内旅行の振興のためには訪日旅行の活性化が不可欠です。そのためには国内と海外との双方を成長させるツーウェイ・ツーリズムが必要であり、訪日旅行・海外旅行・国内旅行の三位一体がその要になってき

ます。そのため、今後のツーリズム産業では、新たな「発展」「イノベーション」の道筋を見出す人材が求められており、特に、柔軟な発想力や物語の構想力がある人材や、「成長」「発展」のどちらも兼ねそろえた人材が必要とされています。

今回の特別講義に参加して、改めて日本の観光業は今後ますます発展していくのだと実感しました。特に、2020年東京オリンピック・パラリンピックまでの観光黄金期に向けて、日本が世界に情報を発信しアプローチしていくことが必要だと再認識しました。また、訪日外国人旅行客がますます増えていく中でしっかりと準備をしていくことが不可欠であり、観光先進国となるためには設備を充実させ、日本でしか体験できないことや強みを再確認することが必要だと感じました。

記者 文教大学国際学部国際観光学科3年 原田翔太